

6月1日(月)に「今、保護者に知ってほしい教育のヒント」をテーマとした「尾木ママの子育てトークライブ」を開催しました。前半は講演会、後半は相談会を行いました。尾木ママの最新の教育事情の講話を聴いたり、皆さんの悩みを共有したりすることで日々の子育てに活かすヒントをもらうことができました。



尾木ママの子育てトークライブ

教育評論家 尾木直樹氏(尾木ママ)は可児市いじめ防止専門委員会の特別顧問に就任され15年目になりました。この間、毎年「学校訪問」「講演会」「子育て相談会」等を実施してきました。

市民の方の姿勢や、小学校、中学校、保育園の様子に至るまで約15年関わらせてもらった中で可児市の成熟ぶりに感嘆したとのことをお言葉を尾木ママからいただきました。



【尾木ママ講演会の要点】



【今、保護者に知ってほしい教育のヒント】

近年、子ども達の相談相手や情報収集の方法は大きく変化しており、特に生成 AI の影響が非常に大きくなっている。子供達は困りごとや悩みを、身近な大人よりも生成 AI に相談する傾向が強まっており、とくに高校生では生成 AI 利用が高い割合にのぼる。一方で、生成 AI は的確に答えてくれる反面、気持ちを受け止めたり、立ち止まらせたりすることが苦手であり、使い方を誤ると深刻な問題につながる危険性もある。

そのため、家庭では生成 AI の良い面と限界を理解した上で、親子で一緒に使ってみることで、そして日常生活の中で自然に会話が生まれる関係づくりを進めることが大切である。特に、家事や食事、片付けなどを親子で協力して行う「共働性」のある家庭生活が、子どもとの信頼関係やコミュニケーションを育てる基盤になる。

また、子どもを頭ごなしに叱るのではなく、理由を説明して伝えること、そして子どもの状況をまず受け止めて話を聞く姿勢が重要である。生成 AI 時代だからこそ、家庭の中での対話と協力を増やし、子どもが安心して相談できる関係を築くことが重要である。

【参加者の声 一部抜粋】

- ・今回で2回目の参加だった。最新の教育事情を知ることができてよかった。生成 AI の最新の動向を踏まえて話をしてくれてよくわかった。
- ・子どもへの声掛けなどハッとさせられた。質問して下さる方々の内容が、自分では思いつかないけど知りたかった内容が多かったので非常に参考になった。
- ・今回で3回目の参加です。毎回とても楽しく、尾木ママの人柄と心に響くお話が大好きです。1年に1度、この時間が自分にとって子どもへの愛しさを見つめ直す時間になっています。
- ・子育てに関する最近の事情、それに対する対応の仕方を知ることができてよかった。尾木ママの人柄がとてもよく、話し方などを参考に子どもに接していきたい。

【子育ての相談コーナーについての相談会の要点】

Q1	小学3年生から嫌がらせを受け教室に行けなくなった。中学生になった今でも不安になり学校に行く前夜に泣き出してしまふ。親としてどう対応したらよいか。
A.	親は「学校に行けていること」だけでなく、今できていることを具体的に褒めて認めるとよい。動物の世話など、命に関わる活動も心の安定に役立つ。固定観念で見ずに、本人らしさを大切にするとよい。
Q2	年中の息子が友達と遊ぶことができない。園の先生からは無理して遊ばせるのは逆効果と助言された。一向に状況が変わらないため、どうしたらよいか。
A.	3～5歳は発達段階によって遊び方が大きく違う。3歳は「並行遊び」。4歳は「連合遊び」。5歳以降は「協同遊び」が中心。無理に一緒に遊ばせるより、その子の発達段階に合った関りが大切。焦らず、今できている遊び方を見守ることが基本である。
Q3	年長の子どもが、3人以上になると友達とうまく関わらず、1人になってしまう。どのような声掛けがよいか。
A.	3～5歳は発達の差が大きく、ゆっくり育つ子もいる。「みんなと同じようにできるはず」とプレッシャーをかけない。今できていることを家庭でも園でも声に出して認めることが安心につながる。家庭や兄弟関係も大きく影響するため、慌てず見守る。
Q4	中学生の子どもが自分で考えて動けるようになるために、親は何を大切にしなければよいか。
A.	「自立しなさい」というだけでは自立は育たない。親はまず、子ども自身にどう思うかを聴くことが大切。自分で考える機会を増やす。男子は女子より発達がゆっくりであることもあり、焦らず見守る姿勢が必要。
Q5	小学校の子どもたちが勉強を自主的にやるようになるには親はどんなことをすればよいのか。
A.	親が「勉強しなさい」と管理しすぎるより、自分で計画を立てる力を育てる。「今日はどういう予定？」と、家庭での過ごし方を子どもに考えさせ、自分で決めて行動できたら、そこをしっかりと褒める。生活全体を自分で組み立てる力が大切。
Q6	反抗期の子どもとの向き合い方や、友達の言動を気にして自己表現ができなくなる子どもへの声の掛け方や、導き方について教えてほしい。
A.	反抗期は「親離れ」の時期。頭ごなしの対応は逆効果。子どもは、自立しようとして、いったん友達に依存することもある。親は見守る姿勢が大切。周囲を気にして言えない子には、無理に言わせず、安心できる環境を整える。
Q7	6年生の息子から学校行事や選手リレーもなくなりつまらないと言われる。先生たちの大変さも分かるが、子どもの率直な思いに、親としてどう向き合えばよいか。
A.	行事が簡素になっている背景には、先生の負担増や人手不足、暑さ対策などがある。ただ「先生が楽をしている」とは一概に言えない。子どもの意見を聴きながら、子どもが楽しく参加できる形を一緒に考えることが大切。「時間が短いかどうか」より、「みんなが参加できて楽しいか」がポイント。

トークライブの様子が、ケーブルテレビ可見「いきマイ+（プラス）」で放送されます。毎月第2土曜日の放送予定です。7:00/12:00/17:00/19:00/23:30の放送です。（場合によって変更することがあります。）



可児市 子育て支援課 子育て応援係 山口 亜衣
 電話：62-1111(内線5545) FAX：66-1005
 E-mail: kosodate@city.kani.lg.jp

